

単元名

読み聞かせ名人になろう！～きいてきいて わたしたちの紙しばい～
「ニャーゴ」（東京書籍 2年下）

本単元で育成する資質・能力

課題発見力

思考力・判断力・表現力

主体性

自己肯定感

1 単元について

【考え・基礎知識】

・場面の様子や主語と述語の関係に気をつけて登場人物の行動を具体的に想像しながら読む。

【つながり】

・文章の内容と自分の体験や読書経験と結び付けて読み、想像を広げたり理解を深めたりする。

【応用・ひろがり】

・人物の行動や様子が伝わるように紙芝居を行う。
・場面の様子を思い浮かべながら楽しくお話を読む。

【単元観】

本単元は、小学校学習指導要領解説国語編「読むこと」（第1学年及び第2学年）読むこと（ウ）の「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら読むことができる。」及び、（オ）「文章の内容と自分の体験とを結び付けることができる。」を受けて設定したものである。言語活動は（2）イ「読み聞かせを聞いたり、物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする。」に対応する。本教材の内容は子ねずみを食べようとするねこねこの恐ろしさを知らない三匹の子ねずみのお話である。ねこの本意とは裏腹に4匹が親しくなってしまうという意外な展開となっており、ユーモラスで軽妙な会話のやり取りが描かれている。構成については、場所や人物の言動の変化、また物語の展開に合わせてそれぞれの場面に描かれた挿絵を手がかりにとらえやすく、文章の内容を精査・解釈することを身に付ける学習材として適している。

【児童観】

児童は、「風のゆうびんやさん」や「名前を見てちょうだい」などの学習で、場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像しながら読むことを学んできている。「読むこと」における単元末テストの平均は1学期が91.5点であったのに対し、2学期は94.8点と成果が見られた。2学期から「はじめ・中・おわり」の構成に着目して読んだり書いたりすることを積極的に取り入れたことの成果であるにとらえている。

「お手紙」の学習では、想像したことや感じたことを絵や音読で表現することに取り組んでいる。しかし、読み取ったことをもとに紙芝居を行うという経験はまだない。本単元に関わる児童アンケートによると、全員の児童が紙芝居が好きだと答えている。幼少期や朝・昼の読み聞かせの時間に紙芝居を読んでもらったことを鮮明に覚えている児童も多い。

文章の内容と自分の体験とを結び付けることについては、授業の振り返りの記述で見取ることができるようになってきているが、まだまだ全体のものにはなっていない。

本学級の児童は、2学期末の時点で読書貯金の目標冊数を全員達成することができた。読書を進んで行うことから、文章の内容と読書経験を結び付けながら読みにつなぐことができる児童もいる。

2学期に行った資質・能力に関するアンケート結果によると、表現力についての肯定的評価が73%と他の項目と比べて課題があることがわかった。

【指導観】

第一次では、これまでに経験したさまざまな読み聞かせの場面を想起させ、自分たちで紙芝居を行うという言語活動を設定する。そのために場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像しながら教材文を読み取る学習を進めていくという学びの必然性をもたせる。

第二次の「課題の設定」の場面では、「どんな紙芝居にしたいか。」を児童に投げかけ、児童の求めからお話のおもしろい場面を見つけ、場面分けにつなげていく。

「情報の収集、整理・分析」の場面では、場面の様子などの叙述や登場人物の様子や会話をもとに、登場人物の行動を具体的に想像することができるよう、「紙芝居の下書きワークシート」を活用して読み取らせる。場面ごとの文章を一枚におさめたワークシートを用い、人物の行動から、どのような表情・口調・様子だったのかを想像して書くようにさせるとともに、表現の工夫についても考えさせるようにする。その際には、登場人物の行動と自分の体験を結び付けたり、挿し絵を手がかりにしたりしながら、根拠を明確にし、説明できるようにする。

第三次では、「読み聞かせ名人になるためには、どうしたらよいだらう。」と投げかけ、学習レリバンスを再確認する。ワークシートをもとに、これまでの学びをつながげながら読むことができるように練習し、まずは、単元前に読み聞かせをしてくれた5年生に発表する。その発表を振り返り、具体的な改善点をもとに再度練習し、家庭学習でも意欲的に取り組ませながら、単元後の1年生や保護者へ向けた発表につないでいけるようにする。

本単元は、図画工作科や生活科、学級活動の学習、また朝の帯タイムと関連付けた。また、他学年や保護者、地域との連携を大切にした。紙芝居を作成する活動については、図工科の「見て見て おはなし」の学習で行う。学びを発揮する場としては、生活科「明日へジャンプ」の学習で、できるようになったことを保護者に発表する内容の一つとして、また、朝の読書タイムにおいて昨年度、2年生がしてくれたように自分たちも1年生に紙芝居を発表する。

本単元で重点的に身に付けることをねらいとした「精査・解釈」の力は、中学校での「内容を解釈すること」へと発展していく指導事項である。これまでの既習事項を活用し、叙述と結び付けて想像することを大切に指導していくとともに、絵本や物語、紙芝居などに多く触れて様々なことを想像する楽しさを味わうことができるような働きかけを低学年の段階から系統的に行っていくたい。

本単元で設定した言語活動を通して国語科のねらいを達成するとともに、表現力の育成・伸長につなげたい。

2 単元の目標

- 物語を紙芝居で表現することに興味を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら読むことができる。 【読むこと ウ】
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けることができる。 【読むこと オ】
- 文の中における主語と述語の関係に気付くことができる。 【伝国（イ）カ】

3 単元の評価規準

資質・能力 思考力・判断力・表現力	・場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像しながら教材文を読み、読み取ったことや感じたことを伝えるために、どのように表現するのが効果的であるのかを文章の内容と自分の体験と結び付けながら思考・判断したことをもとに、紙芝居を行っている。	
国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
(イ)「読み聞かせを聞いたり、物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする言語活動」を通じた指導		
・物語を紙芝居で表現することに興味を持ち、意欲的に取り組もうとしている。	・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら読んでいる。 ・文章の内容と自分の体験とを結び付けている。	・文の中における主語と述語の関係に気付くことができる。イ(カ)

4 指導と評価の計画(国語 全12時間)

次	時	学 習 活 動	評 価	
			教科の評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
単元前		国語科・「心がうごいたことを」(5年生の読み聞かせ) 帯タイム(朝の読書タイム)・読書ボランティアによる紙芝居の読み聞かせ		
第一次	1	課題の設定(国語科) ・学習のゴールイメージをもち、単元のめあてを設定するとともに学習計画を立てる。 紙芝居をするために、どんなことを学んだらよいだろう。	【関】 紙芝居を聞き、物語の紙芝居を発表することについて関心を持っている。 (行動観察・発言)	場面の様子を想像して、感じたことや考えたことの表現の仕方を学んで、お世話になった5年生に紙芝居をするために学習しよう。
	2	情報の収集 ・全文を読み、出てきた人物や場面を手がかりに、物語を5つの場面に分ける。 ・物語のおもしろいところを発表し合う。	【読】 場所と人物、挿絵等に注目して、物語を5つの場面に分け、物語の大体をとらえている。(発言・ノート)	「時」「場所」「人物」が変わるところで場面が分かれるんだね。 子ねずみを食べようとしていたのに驚かないから、猫の方がびっくりしただろうね。
第二次	3 4 5 6 7	情報の収集、整理・分析 ・場面ごとに「場所」「人物のしたこと」を読み取り、人物の様子を思い浮かべて読む。(第6時:本時)	【読】 場面の様子に着目して、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像しながら読んでいる。(発言・ワークシート) 【知】 文の中における主語と述語の関係に気付いている。(発言・ワークシート)	【思考力・判断力】 (発言・ワークシート) ぼくは、書きたいことがうまくまとまらないときにためいきをつくことがあります。ねこも気持ちが悪くまとまらなかったのかなあ。
	8	振り返り・課題の設定 ・これまでの学習をもとに、紙芝居の発表に向け、計画を立てる。 紙芝居屋さんの読み聞かせ名人になるために準備しよう。	【関】 物語を紙芝居で表現することについて関心を持ち、計画を立てている。(行動観察・発言)	第三場面の猫の心の声を工夫して読みたいです。
単元内		図工科「見て見て おはなし」 ・グループで話し合い、物語の様子を思い浮かべて紙芝居を作る。		
第三次	9 10	整理・分析 まとめ・創造・表現 ・自分の体験と結び付けながら想像した人物の気持ちや場面の様子が表れるように、紙芝居を練習する。	【読】 自分の体験と結び付けながら話し方を工夫し、文章の内容と想像した人物の気持ちや場面の様子が伝わるように紙芝居の発表の仕方を工夫している。(行動観察・発言)	それぞれの場面の「ニャーゴ」の読み方をもっと工夫しよう。声の大きさや速さ、抑揚など工夫の仕方はいろいろだね。子ねずみのかわいい無邪気な様子が伝わるようにかぎの文は、もっと元氣よく大きな声で読みたいです。
	11	実行 ・学年で紙芝居を発表する。	【読】 場面の様子を思い浮かべながら、自分が感じたことが伝わるように紙芝居を発表している。(紙芝居発表・発言)	【表現力】 (紙芝居発表) 5年生に聞いてもらってアドバイスをもらえてよかったね。この学びを本番にいかそう!
	12	振り返り ・学習の振り返りをする。	【読】 場面の様子を思い浮かべながら読み、自分が感じたことが伝わるように紙芝居の発表を行うことができたか振り返っている。(ノート・発言)	猫や子ねずみの気持ちが分かるように、声の大きさを変えたり言葉を付け加えたりして読むことができたよ。
単元後		生活科「あしたへジャンプ」・保護者に紙芝居を発表する。 帯タイム(朝の読書タイム)・1年生に紙芝居を発表する。		

5 本時の目標

- ・ねずみの無邪気な優しさに触れ、ねずみを食べるができなくなってしまったねこの行動から様子を想像することができる。 読むこと (ウ)

6 本時の展開

	学習活動 (時間)	◇指導上の留意点 ・予想される児童の反応 ◆主体的な学びを促す教師の手立て	評価規準 (評価方法)
課題の設定 情報の収集	1 四場面の音読を通して、着目した場面を見通す。(3分)	◆本場面は多くの児童がおもしろい場面として選んでいることをもとに、ねことねずみの「ニャーゴ」を音読し、それぞれニャーゴを言葉にして考えさせることでねこやねずみに同化させる。 ・ねこのニャーゴを言葉にすると「おまえたちを食ってやる！」だと思います。 ・ねずみのニャーゴを言葉にすると「たま、おじさん、さようなら。また会おうね。」だと思います。 ◆行動に着目させるため、大型絵本を活用し、再度、ねことねずみのニャーゴを読ませ、どんな様子であるかを考えさせる。 ・「ねこは、ぴたっと止まって」と書いてあるから、勢いがあると思います。 ・「できるだけこわい顔でさげびました。」と書いてあるから、ガオーッと感じだと思います。 ・ねずみのニャーゴは、「三びきがさげびました。」というところと続きのかぎの文から、元気で明るい感じだと思います。 ◆続きの会話文を分担して読ませ、最後の一文「ねこは、大きなためいきを一つつきました。」に至る、ねこの行動の変化に気付かせ、本時のめあてにつなげる。	
	2 人物のしたことを確かめ、本時のめあてを設定する。(5分)		
整理・分析	3 大きなため息をついたときのねこの気持ちを考える。(25分)	◆ペア学習で「ためいき」を動作化し合い、自分の経験と結び付けたり、これまでのねこの行動をつなげたりしながらねこの気持ちを考えさせ、ふ付箋(吹き出し)に書かせる。 ・おれは、お前たちを食べようとしていたのに、どうして優しくするんだろう。 ・おかしいな。おれは、この三びきの子ねずみを食べてしまうはずなのに。 ・ねずみは食べられなかったけど、桃を食べたからまあいいか。 ◆グループで交流し、自分の考えと友達のを比べながら聞き、考えを深めることができるようにする。 ◇理由を問い、その根拠を本文から考えられるようにする。 ◆友達との交流を通して、自分と友達との考えを比較・整理しながら考えたことをワークシートに加筆する。 ・きっと、ねずみはだれとでも仲良くなれて、心がきれいなんだなあ。 ・ねずみを食べるができなかったけど、くやしい気持ちはなくて、なんだか、あったかい気持ちだなあ。	【読】 ・場面の様子に着目して、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像しながら読んでいる。(発言・ワークシート)
	4 自己の学びを振り返る。(7分)	◇本時のねらいである「読むこと」や「付けたい力」を意識した振り返りを書くことができるように視点を明確にする。	
まとめ・振り返り		・最初、ねこは子ねずみを食べる気満々だったのに、子ねずみがかわいいから、食べられなくなってしまったんだと思います。考えていた作戦がうまくいなくて、ためいきをついたんだと思います。だから、ねずみのかぎの文はかわいらしさが伝わるように明るい声で読みたいです。さい後のねこの「うん。」は、優しくされてねずみたちを食べられなくなったねこの気持ちがつたわるように小さな声で読みたいです。	
	5 本時の学びをいかし、音読する。(5分)	◇人物の様子が伝わるように読ませ、表現の工夫が表れているところを価値付ける。	【読】 ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら読んでいる。(発言・ノート)

◎ためいきをついたねこになりきって場面のようにすを考えることができる。

7 板書計画

読み聞かせ名人になろう！
2/8 ニャーゴ

ひたつと
止まって
てきるだけ
こわい顔で
さげました。

食べてやる！

さよなら
また、
会おう

二つ

人へなためい

ちくしょう
食べられなかった
食べたかった
わは、やさしいなあ
自分のものをあげる
わは食へようとしたのに

ひくい声
元気がよく
明るく

やさしく
小さく

またよに

ためいきをついたわこの気もち
やようすを考えて読むことかて
きる。